

北九州市議会議員



田中 元



発行責任者：田中 元

ご挨拶

平素より格別のご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

この1年4ヶ月、2期目として、自民党会派では副幹事長を拝命し、主に会派での動きや他の会派間の調整などにも関わる機会を与您え、また議会改革委員会において、議会というものをどう市民の皆様へ伝えることができるかなどに取り組ませて頂いております。

常任委員会は総務財政委員会に所属し、財政はもとより、危機管理、広報、契約、技術監理といった本市の基礎、根幹となる、いわゆる全庁的な施策に携わらせて頂いております。

急速に進む人口減少です。西暦2100年に日本の人口は5,300万人、200年後には十分の一の1,391万人に減少すると予想され、このままではこの国はもとより地方自体も消滅してしまいます。その最大の原因は東京への一極集中です。

北九州市誕生から55年を迎えた今、「北九州に住みたい」「北九州に住んで良かった」と思える新しい人に流れを生み出さなければなりません。

後援会の皆様の英知を私に頂き、市政において代弁させて頂きたいと存じます。

今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

北九州市議会議員 田中 元

主な役職

会派役職 「自由民主党・無所属の会」 副幹事長

常任委員会 「総務財政委員会」

その他 「議会改革協議会」

田中 元 プロフィール

Table with 3 columns: 学歴 (Education), 職歴 (Career), 地域活動 (Local Activities). Includes details like '戸畑天竺園', '衆議院議員 麻生太郎氏 秘書 (10年間)', '戸畑中央小学校PTA会長 (H24~H27)'.

田中 元事務所

〒804-0082 北九州市戸畑区新池2-6-1 TEL.093-873-2061 FAX.093-873-2062 http://tanaka-hajime.info/

自由民主党・無所属の会 控室 〒803-0813 北九州市小倉北区城内1-1 TEL.093-582-2668 FAX.093-582-4950



ホームページOR



ツイッターOR



フェイスブックOR



～議会報告～

平成29年度9月議会 28年度決算特別委員会「市長質疑」

- 1、MICE推進の平成28年度取り組み実績と今後の取り組みについて ※YouTubeにて動画配信中



平成29年度12月議会 一般質問(項目)

- 1、都市計画道路「戸畑枝光線」について
2、子どものシビックプライド(我が街に対する誇り)醸成について
3、駐上海北九州市経済事務所の活用について ※北九州市議会議会中継(録画)で動画配信中

平成30年度2月議会 予算特別委員会第一分科会主査

北九州市の平成30年度予算について議論を行った。

- 1、小倉城周辺の観光客等の回遊性を向上させる取り組みやバリアフリー化を進める取り組み
2、特命大使(観光大使、文化大使、スポーツ大使)やSNSを活用して、北九州市の魅力を発信してもらうための取り組み
3、大学や専門学校を誘致して、若者を北九州市に増やし、活性化させるための取り組み
4、民間の力を活用した指定管理者制度の導入の促進と、地元製品を使うことによる地元経済の振興
5、民間データ活用のためのオープンデータ化の促進
6、選挙啓発のための高校生による動画制作の取り組み
7、電子決済を普及させるための取り組み



存続決定! 旧安川邸利活用事業

平成27年に(株)安川電機100周年を迎えたことを契機に、安川電機創業者の父である「安川敬一郎」氏らの旧邸宅の保存、活用について、市及び議会においても検討や審議を行いました。旧安川邸は、本市産業発展の歴史にとって、また、シビックプライドの醸成としてもきわめて貴重な施設との考えが決まり、保存及び利活用することが決定いたしました。

そこで、最後まで議論に残ったのが「洋館」の保存でありました。私にも多くの方から存続の要望があり、特に熱心で具体的であった「戸畑郷土史会」の皆様とも何度も連絡を取り合い、3月16日に市長宛に要望書を提出いたしました。4月19日に市長記者会見において正式に【保存、利活用】の決定が発表されました。



完成間近! 戸畑中央小学校内放課後児童クラブ

◆内容

長年、戸畑中央小学校に通わせていた保護者の皆さまの「小学校の中、もしくは隣接した場所に児童クラブが欲しい」という声(要望)を受けて、本校PTAのアンケートはもとより、近隣の保育所、幼稚園の先生方のご協力で保護者の方にアンケートを取って頂きました。約85%の保護者からやはり「近隣にほしい」との結果が出て、地域の方々や小学校のご理解、北九州市子ども家庭局の関係の方々など多くの皆様のおかげで旧テニス場跡地に設置することが決まりました。

◆スケジュール

- 平成31年4月……新・放課後児童クラブ運営開始

◆周辺関係図



祝 戸畑祇園大山笠 ユネスコ無形文化遺産登録 ウェルとばた開館15周年記念

劇団青春座230回公演

葉月けめこ:作 井生定巳:演出 和田正人:制作

戸畑祇園ヨイトサ!

昨年11月に戸畑市民会館において劇団青春座の主催で講演された戦後の戸畑で伝統の祭を愛し守り続けた人々の物語「戸畑祇園ヨイトサ!」に田中元氏は劇中の登場人物で当時の市議会議員 田中巖(祖父) 役を熱演。



～演劇出演を通じて～

戸畑祇園大山笠 筆頭世話人 田中巖役
田中元

戦前、戦中、戦後における戸畑祇園大山笠を描いた演劇を北九州劇団「青春座」が昨年10月18日、19日の2日間3公演があり、私は当時、大山笠の世話役を務めていた祖父の田中巖役をさせて頂きました。

約2か月にわたり稽古をするにあたり、当然であります、戸畑の方じゃない劇団員の皆さんが一生懸命の当時の戸畑や祇園の歴史を知ろうとし、そして、それを演じ、戸畑の方に伝えようとする姿、そして、今回は多くの戸畑の方に来て頂きたいとの想いから、あえて演劇向きには作られていないウェルとばた内の市民会館大ホールにて公演を行った青春座の皆様の御気持ちには感謝するばかりです。約210年を超える歴史をもつこの戸畑祇園も戦争の際は中断を余儀なくされ、戦後の荒廃から復興を願い、戸畑の人々はもちろん、日本の全国民が祭りどころではないと思うのは当然のことと思います。しかし、復興を願いながらも、戸畑っ子には何かに楽しみや、やりがい、熱くなれるもの、いわゆる「魂のより所」であったのが戸畑祇園であったのだと強く感じました。今では7月になれば当たり前のように祭りの時期がやってきます。

しかし、当時は祭りをするのを戸畑の人々は半分諦めていたのに違いない。でも、いつか祭りをやれる時がきっと来ると、表には出せずに心で信じていたとも感じ取れます。その当時の戸畑の人々の心に秘めた戸畑祇園に対する熱い気持ちと心意気を感じたのが、この演劇の核に脚本された進駐軍が母国へ戸畑祇園の幟や幕を手土産に持ち帰ろうとした時でありました。持ち帰られては、祭りをやれると信じていた魂のより所まで奪われることは絶対に許せないとの思いから、戸畑の人々が一計を案じ、「山笠は戸畑の魂そのもの」を進駐軍に見せたところ、米軍側も祭りがこの地域の宝であるあることを理解し、持ち出しを思いとどまらせた。これを契機に戸畑祇園大山笠の復活を遂げたのです。当時、奔走して頂いた先人の方々の想いを引き継ぐべく、現在当たり前のように行っている戸畑祇園の有難さを感じながら、子や孫の世代、その先の世代へと引き渡せるようにしなければならないと戸畑っ子の一人として、その一助になると心新たに覚悟を固めた次第であります。



～ドラマのあらすじ～

1803年(享和3年)、悪疫退散を願って始められた戸畑祇園は、215年の時を得て世界のまつりになった。

戦争はまつりを中断させる。戸畑祇園は明治時代の日清・日露の戦争時代に続き、太平洋戦争により中断された。日本は昭和20年8月敗戦。戸畑も大きな被害を受けた。

ドラマは昭和12年から昭和22年の10年間。敗戦後、進駐軍に戸畑祇園の水引幕をアメリカに持ち帰ると言われ、「日本は戦争には負けたが、魂は負けてない」と抵抗し、昭和22年7月、戦後の戸畑祇園が復活した。

以後70年間、戸畑祇園は4つのヤマが協力しての「競演会」開催にこぎつけ、昼の「幟大山笠」、夜の「提灯山笠」が戸畑モンの誇りを世界に発信している。



劇団青春座

1945年創立以来、北九州市の地域文化を推進し、北九州市を「文化の薫る街」にするために活動を続けています。

信条

劇団員は“良き社会人たれ”をモットーに、徹底したアマチュア精神で、市民生活に根を降ろすと共に「来るを拒まず」の姿勢から、これまで団員になった市民は、千人を超えています。

劇団青春座は北九州市民と共に長い歴史を歩み続け、北九州の地に市民文化を实らせ、その中心的存在として正に「市民劇団」と呼ばれるにふさわしい劇団として、今日も多くの市民に支えられています。

劇団青春座 代表 井生定巳

受賞歴

- 1970年(昭和45年) 第3回北九州市民文化賞
- 1984年(昭和59年) サントリー地域文化賞
- 1987年(昭和62年) 福岡県教育文化功労者表彰
- 1995年(平成7年) 文部大臣表彰
- 1996年(平成8年) 第3回福岡県文化賞
- 2003年(平成15年) 北九州市表彰

海外公演

- 1990年(平成2年)5月 中国・大連公演「無法松の一生」
- 1996年(平成8年)5月 中国・大連公演「さよなら、あなた…」

東京公演

- 1983年(昭和58年)4月 よみうりホール「無法松の一生」
- 1995年(平成7年)5月 東京芸術劇場「時の贈り物」